

7-1	コロナ禍におけるキャッシュレス社会の展望	所属 春日部市立武里中学校 氏名 小谷 勇人
資料名	小池理人「コロナ禍の中で浸透するキャッシュレス決済」(2021年6月2日 第一生命経済研究所) https://www.dlri.co.jp/report/macro/155283.html	
資料内容	<p>○ コロナ禍において、感染防止を目的とした接触機会の現象などによりキャッシュレス比率が上昇したと言われるが、諸外国と比較するとまだまだ割合は低い。</p> <p>○ コロナ禍においてキャッシュレス決済が浸透する中の変化として、少額硬貨の減少やATMの減少が加速している。</p> <p>○ 日本のキャッシュレス決済はクレジットカード決済が主流であるが、QRコード決済はわずか2年で10倍にまで増えている。</p>	
教科書等との関連	中学校公民的分野 市場経済 金融 高等学校公民科 市場経済の機能 金融	
キーワード	コロナ 市場経済 金融 キャッシュレス決済 消費生活	
ねらい	◆ 諸外国と比較すると日本のキャッシュレス比率が低い理由を探究することから、コロナ禍におけるキャッシュレス社会についての今後の展望を構想する。	
活用場面 あるいは 授業プラン の概略	<p>① キャッシュレス化について学ぶ <発問> 「～pay」を利用していますか？使ってみての感想は？ ⇒QRコード決済について触れる。その後、「キャッシュレス化」の用語について確認</p> <p>② キャッシュレス化の波が日本に与える影響 <ペアワーク>キャッシュレス決済が浸透する中で、どんなことが日本に起きているか調べよう。⇒・少額硬貨の減少、ATMの減少及びネット銀行口座の増加 など</p> <p>③ キャッシュレス社会のメリットとデメリット <グループ討議>キャッシュレス決済が浸透することのメリットとデメリットを考えよう。 ・メリット…スピーディな決済、現金を使うことによる社会的コスト削減 ・デメリット…個人情報漏洩の可能性、デジタル格差問題 など</p> <p>④ 世界のキャッシュレス比率を比較する <発問> (冒頭の資料の中の)『世界主要国におけるキャッシュレス決済状況』のデータから気づくことは？ ⇒日本のキャッシュレス比率は低いものであった ・中国、韓国の比率は高い</p> <p>⑤ 日本の今後のキャッシュレス社会の展望を考える <考えよう>学んだことから「今後、日本はさらにキャッシュレス社会になっていくべきか」賛成か反対かを選んで自分の意見をまとめよう。 例・QRコードを利用した新たな詐欺などが心配なので反対です。 ・コロナ禍が終わったら、また外国からたくさんの観光客が来ると思います。インバウンド消費のためにも浸透した方が良いので賛成です。</p>	
備考	「消費生活」で取り扱う時は、現金での支払いと同じ内容の契約であることについて考えを深めさせたい。なお、今回の学習を生かして、キャッシュレス社会が進んでいる中国やスウェーデンなどでは、社会にどのような変化が起きているかという学習につなげることができる。	